

Title	御水帳
Sub Title	
Author	増田, 廉吉 (Masuda, Renkichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.17, No.3 (1939. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	口繪
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390400--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

御水帳について

この『御水帳』は長崎港外伊王島から発見されたもので、紙は凡て唐紙であり活字も一種獨特のものらしい。縦一尺一寸七分、横四寸九分で枚數百五十枚前後である。

この帳は未だ禁教時代長崎附近の潜伏切支丹の間に使用された一種の人別帳であり洗禮帳である。それ等の地には必ず御水方、帳方、抱親（又は聞方）と云ふ舊家の名が遺つてゐる。殊に御水方の家屋敷は一種の靈地でもあるかのやうに尊稱されてゐる。

ある民家に子供が生れると先づ『抱き親』と云ふのがその子を預かつて御水方を訪ね、御水即ち今で云ふ洗禮をうけて『靈魂の名』と云ふものを授かる。それは多くその子の生れた日から一ヶ月以内位に行はれたものらしい。それを帳方と云ふのがこの御水帳に記入したものらしい。

又この帳を基礎として『おらしよの組』と云ふものがある。その組には種々なる規則があり、その第一條を見ると

『いつれのくみといふはなにか』

『一人でいたすことできざることをするが爲めに、あまたの人のあつめでこさります』

などと云ふのがある。其後幕末から明治初年にかけて外人神父が入り込み密かに活動を開始するやうになつた時代、最も注意したのはこの『おらしよの組』であつた。同時にこの『御水帳』に關する一切の再検討であつたらしい。第一御水方が如何なる祈禱の言葉を唱へてゐるか、帳方が祭日などを如何にして決定してゐるか、それ等の點を調査した。其結果出來たものがこの御水帳である。

茲に掲げた寫真中に卵形の印のあるのは、多く誤りを訂正したもので、その時神父 M. A. Salman パトレの名が示されてゐる。

これ等は懸て離島に於ける教會を造る基礎ともなつたものらしく、當時この帳が民間帳方に保存されてゐた爲めに、多くは焼却され破棄されたものらしい。（増田

廉吉）

一	御降生以來千八百七十六年三月五日	二月五日	子の生所 馬	御水月日
二	男児 靈魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
三	貴父 靈魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日
四	此両方貴父の母の魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
五	貴母 靈魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日
六	抱親 靈魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
七	子に水を授けた水方の靈魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日
八	子に水を授けた人の靈魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
九	霊魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日

一	御降生以來千八百七十六年三月五日	二月五日	子の生所 大野	御水月日
二	男児 靈魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
三	貴父 靈魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日
四	此両方貴父の母の魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
五	貴母 靈魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日
六	抱親 靈魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
七	子に水を授けた水方の靈魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日
八	子に水を授けた人の靈魂の名	肉身の名	父 靈魂の名	御水月日
九	霊魂の名	肉身の名	母 靈魂の名	御水月日

(長崎縣立圖書館所藏御水帳)